

# 伝統今でもしつくり

**SUGONARA**  
**スゴイ**  
**なら**  
パワー  
 知られざるまほろば力

コースターや封筒、ぼち袋。それぞれに、正倉院宝物をヒントにした図案や鳥、花の文様があしらわれた。「あっ、かわいい」。20〜30代のOLが次々と手を伸ばした。

昨年9月、東京・丸の内丸ビル。東大寺関連のイベントで、会期の9日間に予想を上回る約300点が売れた。

デザインしたのは、奈良女子大（奈良市）の藤野千代・特任准教授（46）。

社会連携センターで産学官連携を担当。奈良市の酒造会社と共同で2009年、県の花「ナラノヤエザクラ」から採取した酵母を使った日本酒を商品化した。京都出身で和柄好きの藤野さんがパッケージデザインを担当。「洋服にベイズリーのような伝統的文様が使われるのなら、酒のパッケージが正倉院の文様でもいいのでは」。宝物の文様を参考にパソコンで図柄を描いた。

## デザイン



藤野さんがデザインした菓子や酒の箱。柄の華やかさに引かれて買う女性が多いという＝奈良市北魚屋東町の奈良女子大学社会連携センター

奈良のデザインって、実は想像以上にクール——。文化服装学院のファッションショーに登場した衣装の素晴らしさに、そんな確信を抱いた。

でも、奈良のデザインの素晴らしさはまだまだ多くの人が気づかないまま、埋もれているはず。奈良をテーマにデザインコンペを開けば、間違いなく全国に通用する作品が集まるだろう。ヒット商品も誕生するかもしれない。

（荻原由希子）

日本酒は女性客が次々と買っていった。「華やかなので引き出物に」と50個まとめ買いくる人も。藤野さんのデザインに県内の菓子メーカーや印刷会社も注目し、東京にある県のアンテナショップなどでの販売にこぎつけた。

授業で学生にデザイン画を見せると、「おしゃれ」「昔の人のセンスに脱帽」と反応が返ってくる。「基本の形がしっかり作り込まれている。だから、現代でも通用するんです」

「華やかなので引き出物に」と50個まとめ買いくる人も。藤野さんのデザインに県内の菓子メーカーや印刷会社も注目し、東京にある県のアンテナショップなどでの販売にこぎつけた。

一歩（ひだ飾り）、宝物を思わせるような金色のアクセサリー……。昨年11月末、なら100年会館（奈良市）の舞台で奈良をテーマにした衣装約120点が照明を浴びた。

東京の服飾専門学校「文化服装学院」の3年生200人によるファッションショー。デザインは仏教美術などに着想を得た。アパレルデザイン科3年の北原麻里絵さん（23）は正倉院宝物をモチーフにした。「宝物は昔のものと思えないほどかっこいい」

同校は1955年から毎年、奈良で古美術研修を続ける。なぜ奈良なのか。「服飾を学ぶ者にとって外せない場所」と野中慶子・アパレルデザイン科教授（52）。「京都研修もあるが、より歴史の古い奈良の美術には現代デザインの原因がある。仏像の衣紋の形や素材感、工芸品の柄の配置は大変参考になる」

今春には東京でのショーも予定している。

近世や現代のデザインも、奈良らしさが人気を集める。奈良市のもちいどのセンター街にある手ぬぐいの店「なら町長屋朱鳥」。店頭には奈良町名物「身代わり猿」やなら燈花会（あかり）の口ウソク、東大寺の仁王像などを大胆に図案化した手ぬぐいが並ぶ。来店者の半数は20〜30代の若者

「人間の価値観はそう変わらない。かつての日本人がいて感じたいものに、今の我々も変わらぬ魅力を感じる。無理や無駄のない形が伝えられ、今でも生かせるストックが大量にあるんです」

古典的であったり、歴史を感じさせたりする奈良デザイン。村田武一郎・県立大教授（61）は地域計画は、奈良の伝統デザインを現代の商品に生かすよう提言している。

「人間の価値観はそう変わらない。かつての日本人がいて感じたいものに、今の我々も変わらぬ魅力を感じる。無理や無駄のない形が伝えられ、今でも生かせるストックが大量にあるんです」

で、その半数強を東京、横浜など関東が占める。インターネット通販は北海道から沖縄まで全国から注文が来る。奈良筆の柄の手ぬぐいを手にした兵庫県西宮市の軸装作家たぐみさん（50）は「シンプルなお線や和風の色が、かえってモダンに感じさせる」。